

第61回 献上茶 謹製事業

献上茶謹製事業は、静岡県内の茶産地から選定された市町がその年の新茶から謹製した手揉み茶を皇室に献上するという伝統行事です。

この事業は、戦前から静岡県茶業組合連合会が主催していたもので、昭和47年からは静岡県茶手揉保存会に引き継がれて毎年実施されているものです。

これまでに、平成13年に旧本川根町、平成16年には旧中川根町が実施していますが、合併後川根本町として実施するのは初めてのこととなります。

献上茶謹製にあたっては、徹底した茶園管理が不可欠です。昨年5月から準備に取り掛かり、指定園主のみならず、手揉保存会、営農指導員など多くの支援により、茶葉の生育を見守ってきました。

昨年秋の乾燥や4月に入っても冷え込みが続くなど、生育が心配されましたが、順調に生育された茶葉は、皇室への献上茶にふさわしい、良質なものとなりました。



事前の被覆や摘採作業など、地区の皆様の協力もいただきながら、準備をすすめてきました。



令和元年
今年の
川根茶



この5月、川根本町は新しい元号とともに例年より少し遅めの「茶時」を迎えました。

町内は茶の摘採に精を出す人たちの活気にあふれ、茶工場からは機械が動く音とともに何ともいえない良い香りが漂い、お茶どころとしてまさに最盛期を迎えました。

天皇陛下が新たに即位される記念すべき令和元年、川根本町は皇室献上茶を謹製するという栄誉を賜ることとなり、新しい時代に大いなる期待を持てるスタートとなりました。

棚森 直一 貢

敏子